令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立小山台小学校

【国語】 実施学年：第2～6学年

（1） 国語科の定着状況についての概要

・全体的に目標値より上回ることができた。

（2） 具体的な課題

2年生	・場面の様子や登場人物の行動など大体をとらえることが苦手な児童が多い。
3年生	・漢字の習得ができていない。 ・文章の中の重要な語を見つけるごとが難しい。 ・語と語や文と文の続き方に注意しながら、文章を書くことが難しい。
4年生	・説明文の内容を理解し、どのような文章構成にすればよいかを考えることに課題がある。
5年生	・言語学習がやや劣っている。漢字の書き取り、修飾語についての理解がやや低い。
6年生	・漢字を書く力がやや不足している。 ・文章を書く力が他の内容と比べると低い。

（3） 課題の原因として考えられること

2年生	・「身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにする学習」のしりとりでは、情報と情報の関係について推察して考える語彙力が不足している。 ・物語を読み取って大体の内容をとらえる力が不足している。
3年生	・日常的に漢字を活用して書く機会が少なく、漢字の定着が十分ではない。 ・文章を読む際に重要な語句や文相互の関係を意識する経験が不足している。
4年生	・活字に親しむ時間が減少している。（図鑑や絵本、学習マンガを楽しむ児童が多い。） ・文章構成を意識して説明文を読めていない可能性がある。
5年生	・漢字学習に費やす時間が短いため、個人差も大きい。 ・習った漢字を日常的に使わない児童も多い。 ・タブレット使用による語彙力や漢字力の低下も考えられる。
6年生	・漢字学習に費やす時間に個人差があり、定着に差が生まれている。 ・習った漢字を日常的に使わない児童も多い。 ・文章を書く機会が少ない。

（4） 課題解決のための方策（取組指標）

2年生	・語彙力を増やす言葉遊びや音読遊びの活動を取り入れる。 ・物語文を通して場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉える学習を増やしていく。
3年生	・漢字を活用して書く活動を継続的に取り入れるとともに、キーワードや接続語、指示語に着目した読みの指導を充実させる。 ・語句の選択や文のつながりを意識して推敲する活動を行い、書く力の向上を図る。
4年生	・物語的文章の学習などで、「活字に触れたい」「もっと読みたい」という意欲や関心を高められるよう授業改善を図っていく。
5年生	・定期的に漢字テストに取り組み、定着を図る。 ・辞書引きなどを行いながら、語彙力を伸ばす。
6年生	・定期的に過去に学習した漢字のテストを行い、定着を図る。 ・文章を書かせる機会を増やし、具体的にポイントをおさえる。

【社会】 実施学年：第4～6学年

（1） 社会科の定着状況についての概要

・すべての学年で、目標値を超えることができた。

（2） 具体的な課題

4年生	・身の回りで働く人々の工夫や努力について、資料をもとに正しく理解できていない。 ・資料をもとに、人口や鉄道利用者数の変動を理解できていない。
5年生	・「浄水場」など施設の名称を覚えていない。 ・地図や資料を読み取って、判断することができない。
6年生	・日本の工業生産と水産業についての学習の定着が不足している。

（3） 課題の原因として考えられること

4年生	・社会の仕組については理解できているが、人々を通して社会の成り立ちを理解する段階に至っていない。 ・資料を正確に読み取る力がついていない。
5年生	・読み取りの力が弱い。また、しっかりと読まない児童も多い。 ・普段から資料に触れたり、自分で活用したりする機会が少ない。
6年生	・知識を定着させる機会が少ない。

（4） 課題解決のための方策（取組指標）

4年生	・人を通して社会を知ることができるようにゲストティーチャーなどを活用した授業を行っていく。 ・資料の読み取りの仕方について、系統的に指導していく。
5年生	・社会科に限らず、読み取りの学習に力を入れて指導する。 ・たくさんの資料に触れさせる機会を増やし、資料を読み取ったり、活用したりできるように指導していく。
6年生	・単元末テストだけでなく、小テストやクイズ形式で復習する機会を増やし、学習の定着を図るうに指導していく。

【算数】 実施学年：第2～6学年

（1） 算数科の定着状況についての概要

・すべての学年で、目標値を超えることができた。特に3・4・6年生は、目標値を約10ポイント以上上回っている。

・同一集団の経年比較で見ると、昨年度より上向きになっている。

（2） 具体的な課題

2年生	・数直線や数の大小が理解できていない児童がいる。 ・図に表したり、立式したりして文章題を読み取る力が弱い。
3年生	・長さの単位の関係（㎜、㎝、ｍの大小）を理解していない。
4年生	・直径の長さは半径の2倍であることはほぼ理解しているが、なぜそうなるのかを説明することができない。 ・「小数＋整数」の計算で位をそろえずに計算する誤答が多かった。
5年生	・平行四辺形の作図が正確にかけない。 ・身近にあるもののおよその面積を推測することができない。
6年生	・平均を求める問題についての理解が不足している。 ・合同な三角形を作図することができない。

（3） 課題の原因として考えられること

2年生	・数の構成や数系列、数直線について理解できていない。 ・問題文を読み取る力が弱い。文章が長いと読まないで回答している。
3年生	・身近にあるものの長さを測り、長さの単位の関係を押さえられていなかった。
4年生	・図形の用語を覚えるだけでなく、学んだことを自分の言葉で表現する活動が少なかった。 ・筆算を使わず、暗算で計算していた。
5年生	・作図の方法を十分に理解していない。作図の経験不足。 ・1 ㎠と1㎡の広さの違いが実感として分からない。
6年生	・場に応じた平均の求め方の理解が不十分だった。 ・正しい作図の仕方を理解し、道具を使って正確に作図する経験が少なかった。

（4） 課題解決のための方策（取組指標）

2年生	・基礎的な練習問題に取り組む。解き終わったら見直しすることを徹底する。 ・文章題は、一文ずつ読み、大切なことに線を引かせて、設問の内容を理解させる。
3年生	・いろいろなものの長さを測るという活動を通して長さの量感を養う。
4年生	・問題の解き方を自分なりに説明する活動を多く取り入れる。 ・筆算のよさを知り、学習が定着するまで繰り返し取り組ませる。
5年生	・いろいろな図形を作図し、作図の経験を増やす。 ・自分の知りうる知識や数量を身近なものと結び付け、見当を付けたり推測したりしながら活用できるように指導する。
6年生	・定期的に復習する時間を設定し、学習が定着するまで繰り返し問題に取り組ませる。 ・図形の性質を理解し、見通しをもって作図できるように指導する。

【理科】 実施学年：第4～6学年

（1） 理科の定着状況についての概要

・全学年で目標値を上回っている。

・4年生は、区・全国の平均正答率も上回ることができた.

（2） 具体的な課題

4年生	・「植物の育ち方」や「昆虫の体のつくり」についての正しい理解ができていない。
5年生	・「天気の様子を気温」では、気温の記録から雨が降った日の予測と理由を答えることができない。 ・「電気のはたらき」で、プロペラがより速く回るつなぎ方を答えることができない。
6年生	・電流のはたらきやふりこのきまりについての理解が不足している。

（3） 課題の原因として考えられること

4年生	・知識と実物を結び付けて考えることができていない可能性がある。
5年生	・問題や図表を注意深く読み取れていない。 ・説明する問題は、考えずに諦めてしまう。 ・記録の表やイラストを見た時に、得た知識を生かして読み取れていない。
6年生	・電流の大きさと電磁石のはたらきの理解が不十分であった。 ・ふりこの時間の変化が長さの変化によって生じることの理解が不十分であった。

（4） 課題解決のための方策（取組指標）

4年生	・教科書の内容の理解に止まらず、実際に実物を見たり触ったりするなど、五感を使って学べるようにしていく。
5年生	・理科に限らず、読み取りの学習に力を入れて指導する。 ・得た知識を実体験として生かし活用できる学習を増やし、活用能力の向上を図る。
6年生	・授業内で実験器具を使用する機会を増やす。 ・児童が主体的に考え考えて、実験に取り組めるようにしていく。

【英語】 実施学年：第6学年

（1） 英語科の定着状況についての概要

・目標値をどの領域でも上回ることができた。

・聞くこと、読むことの領域が１０％以上上回ることができた。

（2） 具体的な課題

・書くことの領域についての理解が不十分であった。

（3） 課題の原因として考えられること

・英単語の意味は理解しているが、発問に対する答えを導くのに時間がかかってしまう。

（4） 課題解決のための方策（取組指標）

・書く練習を増やして文字を書くスピードをあげるように指導をしていく。

・グループ活動だけでなく、自分が言いたいことを自分の言葉で書いたり発表したりする機会を増やす。